

(4) 教頭部会

会 長 宮崎 平 (西土佐小学校)
 副会長 久保田隆一 (中村小学校)
 森 和也 (東中筋中学校)
 事務局 渡邊 章久 (中筋中学校)

1. 研究主題 「小中連携をどう進めるか ～子どもたちの学びと育ちの保障をめざして～」

2. 研究経過

月・日	研究のあらまし	会 場	備考
4/3 (金)	★定期総会及び第1回中央区小・中学校教頭会研修会 「役員選出・組織づくり等」	四万十市役所 防災対策室	全会員
5/2 (月)	幡多地区小・中学校教頭会研修会 (総会・研修会)	武道館	役員のみ
5/3 (金)	令和2年度高知県小・中学校教頭会研修会 (総会・研修会)	高知会館	役員のみ
5/18 (月)	☆第2回中央区小・中学校教頭会役員研修会	具同小学校	役員
6/22 (月)	☆第3回中央区小・中学校教頭会役員研修会	日産サテリオ 四万十店	全会員
	★第3回中央区小・中学校教頭会研修会 「幡多地区小中教頭会研究大会」レポート研究		
7/30 (木)	☆第4回中央区小・中学校教頭会役員研修会	中村南小 パソコン室	全会員
	★第4回中央区小・中学校教頭会研修会 「校務支援システム」研修会		
8/19 (月)	第6回四万十市校長会 第1回教頭・主幹教諭合同研修会	四万十市社会 福祉センター	全会員
8/28 (金)	☆第5回中央区小・中学校教頭会役員研修会	日産サテリオ 四万十店	全会員
	★第5回中央区小・中学校教頭会研修会 「四国教頭研究大会」下田小、中学校 レポート研究 東京都千代田区立麹町中学校 工藤勇一校長のビデオ視聴研修		
10/4 (金)	幡多地区小・中学校教頭会研究大会 (宿毛・大月大会) 中止		
	第38回四国教頭会研究大会 (高知大会) 兼 第46回高知県小・中学校教頭会研究大会 紙面発表大会		
12/17 (木)	☆第6回中央区小・中学校教頭会役員研修会	日産サテリオ 四万十店	全会員
	★第6回中央区小・中学校教頭会研修会 休校に向けての取り組み (大用中 黒田健二教頭) 「教育しまんと」原稿の確認		
1/5 (火)	第9回四万十市校長会 第2回教頭・主幹教諭合同研修会	四万十市社会 福祉センター	全会員
2/1 (月)	☆第7回中央区小・中学校教頭会役員研修会	日産サテリオ 四万十店	全会員
	★第7回中央区小・中学校教頭会研修会 「今年度の総括と来年度の方向性」		

3. 研修活動

(1) 研究テーマに係る研修

本年度は第38回国教頭研究大会の実践発表（第3研究課題）が中央区教頭会の担当であったため、昨年度より下田小中学校が中心となって研究を進めてきた。四万十市内の小中学校は小規模校が多く、下田小中学校と地域との連携した取り組みが、本年度の本研究会テーマである「小中連携をどう進めるか」に繋がる部分が多くあるため、四国教頭研究大会実践発表に向けての協議を、本研究テーマに係る研修とすることとした。（※別紙参照）

(2) 学校事務共同組織（支援室）との研修会

第4回研修会では、本年度も四万十市学校事務支援室の篠田事務長・酒井主事を講師に招き「働き方改革・校務支援システム」についての研修を実施した。四万十市では、一部の学校にしか校務支援システムが導入されていないが、導入校へ異動した場合の事を考え、実際にパソコンを操作して出席簿や学校日誌へ入力する研修を実施した。また導入校の活用例など情報交換も行った。

(3) 校長会との合同研修会

本年度の教育委員会主催の校長、教頭、主幹教諭合同研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初の研修会は中止になったものの、2回の研修会を実施した。

8月の研修会では、高知県教育委員会 長岡幹泰教育次長による『高知県の学校教育の歴史と今後の展望について』という演題での講演があった。内容は過去の学校教育の変遷をひも解きながら、今後中長期的に予想される社会変化に伴う学校教育の展望について語っていただいた。特にGIGAスクール構想による学校現場への情報機器導入を目前に控えた中で、情報機器を活用した3パターンの授業映像を視聴させていただき、授業改善を進める上で大きなヒントとなった。

1月の研修会では、東中筋小、小島校長が『学校教育活動全体を通じて行う道德教育』、中村西中、門田教頭が『新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善と学力向上』についての実践発表があった。

東中筋小、小島校長の発表では、道德教育の授業改善や指導と評価の一体化など学ぶべきことが沢山あったが、中でも印象的だったことは、道德教育を中心にしたユニット化の取組であった。東中筋小では、学期毎に道德教育の大きなテーマを設定して、道德の授業と学校行事を関連付け、ユニットとして学校全体で取り組むことで大きな成果をもたらしているようである。児童への自尊感情に関するアンケート調査（自分にはよいところがある）では、平成30年度に60%程度であった数値が、令和2年度には90%まで上昇したとのことであった。それと比例するように学力面、体力面ともに上昇し、相乗効果をもたらしているようである。

四万十市では小中学校ともに、不登校児童、生徒の出現率が全国平均より高く、市全体の課題となっている。東中筋小の取組はこの課題を解決するために、有効な手段となるように感じた。

中村西中、門田教頭の発表では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を、学校の**組織力を向上**（教員同士が学び合える仕組み作り）させることで進め、成果が表れているようである。

中村西中は平成30年度より教科の縦持ちを実施している。そのため、教科担当教員の指導力や授業内容の格差を是正するために、週1回の教科会、月2回の教科長会を実施しているようだ。また、教科担任同士がお互いの授業を見合えるよう、時間割の工夫や5教科以外でも授業改善プランを作成して、全教科でベクトルを合わせて課題改善（文章表現：根拠をもって自分の考えを示す）に取り組んだようである。その結果、県学力調査の国語、数学の記述式問題においては、全国平均値より高い結果となったとのことであった。

また、組織力向上エキスパートの松田先生からのアドバイスで、学年部会（横の繋がり）にも力を入れ、縦、横バランス良く取り組む中で、生徒は落ち着いた学校生活が送れているようである。

再来年度から市内3中学校が中村西中に統合することになっているが、門田教頭の発表から学

校の落ち着いた様子がわかり、万全な体制で統合できるように感じた。

(4) 千代田区立麴町中学校・工藤勇一校長の講話動画を視聴

麴町中学校では、工藤校長の既成概念にとらわれない学校経営で、いつしか「子どもを入れたい学校ナンバー1」と言われるようになり、全国から入学を希望する生徒があとを絶たないという。それは、地域の人材や企業を活用した授業、部活動をクラブチームに移行、旅行計画を立てる目的の修学旅行、AI（タブレット）を活用した数学の授業、生徒の要望によって単元テストを2回以上実施できるシステム、宿題、学級担任の廃止など、ありとあらゆる取り組みを行っている。

学校の規模や取り巻く環境は異なるが、四万十市でも地域人材を活用した働き方改革やGIGAスクール構想による授業改善が議論される昨今、いち早くそれらを取り入れて学校改革を成功させた工藤校長の手腕に多くの事を学ぶことができた。

(5) 休校に向けての取組・蕨岡中学校・黒田健二教頭の講話

四万十市では、学校再編で市内6中学校（大川筋、後川、蕨岡、八東、東中筋、中筋）が中村中、中村西中に統合することが決定している。今後多くの学校が休校をむかえる中で、いち早く休校となる蕨岡中学校の黒田教頭に休校に向けての取組について講話をして頂いた。

蕨岡中では、令和2年の4月に休校記念事業実行委員会を立ち上げ、記念式典の開催、記念誌の発行、記念碑の設置等に取り組んだようである。

休校記念誌については、今まで休校になった学校の記念誌を参考に概要を検討し、作成部数、内容、装丁、予算などを決定したようだ。中でも予算については、記念誌発行部数が700冊になったことから、120万円の予算が必要となり、不足分を寄付金で補ったようである。

記念碑については、設置場所、大きさ、碑文の内容などの検討が行われた。また、記念誌、記念碑ともに2社から見積を取り、依頼業者を決定したようである。

式典部会は式典に向けてのタイムスケジュールの確認、式典の規模、内容、参加者の確認が行われた。12月からは案内状の発送、記念式典出席者名簿の作成、記念碑除幕式、記念式典式次第等が決定されたようである。記念事業と同時進行で校内業務（備品の移管作業）等があるため、備品の整理や教職員名簿、卒業生名簿のデータ化などは、前年度から取り組んだ方がよいとのことであった。

最後に黒田教頭の話は、実際に取り組んでみないと分からなかった事が多く、大変参考になった。対象の中学校は早速休校に向けて取り組みたい。

4. 今年度の成果（○）と課題（●）

- 研修内容を工夫して実施できたことが良かった。（工藤校長の講話、黒田教頭講話、校務支援システムの研修等）
- 研修開催時間を午後4時からにして良かったが、学級担任を兼ねている小学校の教頭先生は参加が難しかった。
- 市P連体育大会などの行事についても、各校で教頭が中心になって検討できて良かった。
- 研修会開催時間を午後4時からにしたことで、協議する時間が短くなった。

5. 来年度に向けて

- ・再来年度休校をむかえる中学校の教頭先生方の業務を軽減するために、来年度の教頭会の役割について配慮する。